

epoch

エポック No95

～千代田区生涯学習推進委員会議だより～
平成28(2016)年3月 発行

第10期第9回 概要報告

平成27年12月24日、第9回会議が開催されました。

12月3日(木)に無事モニターコースの最終回が終了し、事務局から実施結果・アンケート集計の報告を行いました。モニターコースを聴講した委員からの感想や今後の課題など、委員全員が活発に意見を出し合い、平成28年度秋の開校へ向けて最終確認ができました。

また、気になる「(仮称)生涯学習大学」の正式名称は、エポックの中で発表します！

(仮称)生涯学習大学モニターコース実施結果



● 出席人数・満足度調査 (最終受講者数：32名)

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
出席人数	35名	34名	34名	35名	30名	31名	26名	30名
欠席人数	1名	2名	2名	1名	4名	2名	6名	2名
キャンセル ※1	—	—	—	—	2名	1名	1名	—
講座満足度 ※2 (0-100%)	88%	85%	84%	87%	82%	77%	83%	90%
	全8回を通しての満足度：86%							

※1…参加者都合により、モニターコースの受講を辞退した人数

※2…各回実施のアンケートにて、100%を最高値として満足度を集計

● アンケート集計結果概要 (記入漏れ、複数回答あり)

▽ふさわしいと思う大学名称は？

- ・千代田生涯学習大学 6名
- ・ちよだ生涯学習カレッジ 13名
- ・千代田生涯学習アカデミー 8名

▽修了までの履修期間で適切なものは？

- ・1年 29名
- ・1年半 0名
- ・2年 1名

▽年間に希望する授業回数は？

- ・10回(月に1回) 10名
- ・20回(月に2回) 17名
- ・30回(月に2～3回) 5名



▽1回あたりの授業時間は？

- ・60分 1名
- ・90分 16名
- ・120分 13名

▽1回あたりの授業料は？

- ・300円 3名
- ・500円 16名
- ・800円 3名
- ・1000円 8名

▽ひとクラスの受講人数は？

- ・20名 11名
- ・25名 5名
- ・30名 13名
- ・35名 2名



▽アンケート自由記述

- ・千代田区に勤めていて、千代田区で定年を迎える人は多いと思う。仕事が終了したのであればもう千代田区に来る必要はなくなり、これからは地元で何か活動するなり、新しい仕事をするなり新たな場所に行く。しかし、千代田区が嫌になったわけではなく、もし定年後も仕事と関係なく自分を迎えてくれる場所があれば、千代田区で活動したいという人は多いのではないだろうか。今まで千代田区でやってみたいこと、見てみたいことがあっても仕事が忙しくてできなかった人もいたと思う。区で行うセミナーなどはほとんどが千代田区在住・在勤が対象なので、今後は在住・在勤だけではなく、千代田区OB/OGという枠を設けたらどうか。そのような人達が帰ってこられる場所 Home coming 千代田区を希望する。
- ・一口に生涯学習、ボランティアといっても実に多彩な活動であること、専門性に特化し、細分化していることなどを改めて知ることができた。千代田区が千代田区として行う生涯学習のコーディネートはどうあるべきなのか、まだまだ議論の余地があるのであれば、幅広く学び、

多様性に対応し、一体感(方向性)を出すといった形になればと思う。

- ・グループワークでは参加者によって温度差が違うなと思った。また、仕事等で急ぎよ来られなくなる人もいるので、そのあたりのフォローは大切だと感じた。
- ・グループワークは盛り上がるが、後半4回の講座については、もう少し講義の時間があればいいと思った。
- ・いろいろなバックグラウンドを持つ方々との共同作業は難しくもあり、楽しくもあった。こういうコースの醍醐味なのかな、と思う。皆さん貢献意欲が高く、いいチームだった。
- ・ボランティアは実践の場が無いと育たない。また、失敗と成功を重ねる事によって自分自身が判り、仲間との意見交換によってチームの方向性が自ずと定まる。2019年ラグビーワールドカップ日本開催や2020年東京オリンピック・パラリンピックを視野に入れ、何が自分達にできるのか、そのできる事を一つ一つ着実に進める事によって、結果は自然に出てくると思う。



モニターコースについて質疑応答

○多くの受講生が、「(仮称)生涯学習大学にボランティアスタッフとして参加することに興味がある」と言っている。長い時間努力し、なおかつこういった興味を示している点について、区や九段生涯学習館ではどのような対応を検討しているのか。

⇒来年度の本格開校に向け、これから要綱を作成して募集をかけ、具体的な検討を進めていく中で、今回モニターコースに参加した受講生にも意見を聞き、開校後の関わり方について提案やアドバイス、要望をいただきたいと考えている。

- モニターコース受講生の方々には、来年度の開校後ティーチングアシスタントのような形で参加していただけると良いと思う。
- 実際に初回と最終回を聴講させていただいたが、グループ発表の際に法被を着ている方、ギター

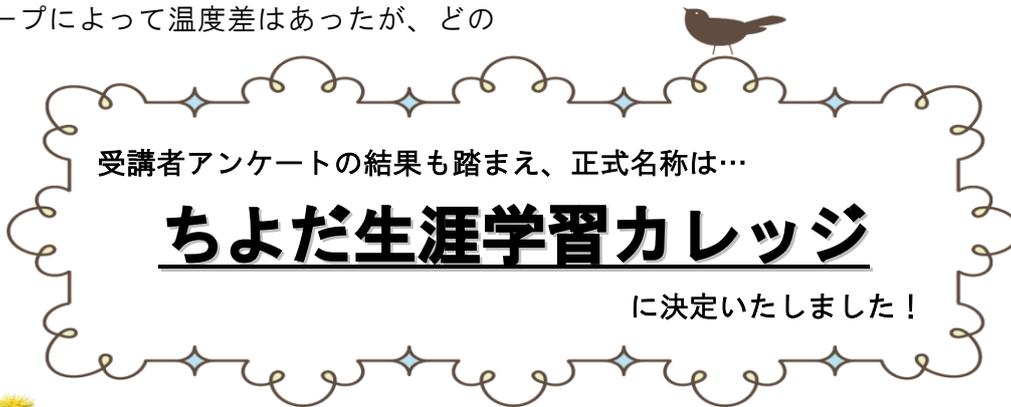
を弾く方、いろいろな方がいて、本当に千代田区のいいところを発信しようとしているのだと感じた。もっと真面目で固い発表なのかという先入観を持っていたが、こういう方々が今度開校する大学に集まれば、きっと面白いものができるのではないかなと思う。

- 受講者アンケートの中で、「前半が講義・後半が発信力についてのグループワークだったが、繋がりがりや関連性をあまり感じられなかった」という意見があった。私も講座内容を見て少しそんな印象を受けたので、改善が必要だと思う。

⇒今回は全8回という講義の中で流れを作る必要があったため、こういった課題が出た。座学とグループワークを並行して受けるほうが受講生の満足度は高い傾向にあるので、正式開校後のカリキュラム案には意見を反映させていきたい。

- グループワークに参加していた方について、20代や30代が積極的・消極的、というような年齢による傾向はあったのか。
⇒グループによって温度差はあったが、どの

グループもバランスは良かったと思う。特定の年代がグループワークを苦手としているという風には見受けられなかった。



コース名称・カリキュラム(案)について

● コース名称・内容

▽平成 28 年度開校

- ・ 学びと地域のコーディネーター(養成)コース
…プロボノ活動によって地域と人を繋ぐ

▽平成 29 年度以降に開校予定

- ・ おもてなしのコーディネーター(養成)コース
…千代田区を訪れる人々の観光をリードする
- ・ 和のコーディネーター(養成)コース
…日本伝統文化や和食を伝える
- ・ 暮らしと地域のコーディネーター(養成)コース
…環境・福祉・防災などの分野で活動



● カリキュラム(案)

1 コース 6 プログラムとし、1 プログラムにつき 6 回の授業を予定。1 年次の入学式、2 年次の卒業式を含め、2 年間で全 38 回のコースを想定している。

- ・ 基礎①…千代田区学（千代田区概論）
- ・ 基礎②…千代田区の生涯学習
（区内施設紹介・見学・体験など）
- ・ 専門①…生涯学習概論（基礎学習）
- ・ 専門②…生涯学習特論（専門的な講座）
- ・ 実習……生涯学習計画（イベント企画など）
- ・ 演習……生涯学習演習（ゼミナール形式）

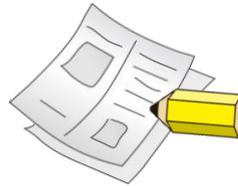
意見交換・質疑応答

- 「おもてなし」や「和」のコーディネーターについて、もちろん区の中のもの学ぶということは必要だが、区を取り巻く他の地方、日本を取り巻く他国の状況についても学んでいけるような内容があればいいと思う。
- 普通こういったコースには初級・中級という段階があったりする。千代田区在住・在勤・在学のさまざまな方がいて、さまざまな角度で学びたいと思ったとき、おそらく多様なニーズがあるかと思うが、開校後、「学びと地域のコーディネーター」の上級レベルというような形のコースをつくることは考えているのか。
⇒上級のコースを設定するというよりも、卒業・修了者が、実際にボランティアやプロボノとして街へ出て活動していくこと自体がスキルアップの場になると考えている。

- 「和のコーディネーター」について、伝統文化や和食のすばらしさを次世代や外国の方に伝えていくというのは、現状そういった要望が挙がっていることから出てきた案なのか。
⇒九段生涯学習館でさまざまな講座を実施する中で、日本のことを知り勉強する講座に根強い人気があった。また、先日のミラノ万博では、和食に大きな注目が集まったと聞いている。千代田区には国立劇場があったり伝統ある飲食店があったりと、伝統文化を伝える場所が多いため、それをコーディネーターとして伝えられる人材が求められるのではないかと考えたためである。
- カリキュラムには演習・実習・基礎の講座があり、理論的な勉強から実際に見学して学んだり自ら実践したりする機会があるという点では、

- 非常にバラエティーに富んでいていいと思う。
- 通常こういった目的のある機関は、入学する段階で一定の能力があるか選定するが、生涯学習大学ではそういったことができない。学校教育との違いは、参加者の経験によって授業の中身が深められる点にある。知的な理解だけでなく、実際に活用することによって実践的な楽しさを感じられるようにすることが重要かだと思う。
 - 大学で授業を受け持っている、グループ作りというのは難しいと実感している。大学生は一定の目的を持って入学してくるが、生涯学習大学にはバラバラの目的を持った方々がやってくるので、ファシリテーターの必要性を感じる。

- 2年間学ぶ中で、やむを得ない用事などで授業に出られなかったり、出席したいのに行けない事情があったりすると思う。通常の学校では、最終的な目標として卒業や資格の取得があるが、こういった大学では目標の設定が難しく、途中で断念する人がいないとも限らない。どうしても、という方に対する救済措置は是非つくっていただきたい。



—リレー随筆 No.12—

「三方よし」の関係づくりを

佐藤 晴雄

千代田区でも生涯学習カレッジの開設によって、学習ボランティア活動が広がりを見せるようになってくると思います。学習ボランティアは相手の学習を支援し、その成果を高めるだけでなく、自らの学びと健康づくりにもつながるはずです。

学校支援のボランティアの話ですが、ある小学校では80歳前後の高齢者グループが定期的に授業を支援しています。その方たちは頭を使いながら子どもたちから元気をもらっていると語っています。先生や子どもたちも、そのボランティアから様々な成果を得ました。しかし、それに止まらず、その活動によって地域も活性化してきたと言われます。つまり、学校とボランティアのWIN&WINの関係に止まらず、地域にとってもWINが得られているわけです。「世間よし」という成果も得られたのです。

このように、学習ボランティア活動は、学習者とボランティア自身、そして地域の3者にとって意義のある「三方よし」の考え方で進められることが期待されます。

【編集後記】

第10期、最後のエポックをお送りいたしました。今回正式名称が決定した「ちよだ生涯学習カレッジ」、いよいよ来年度開校となります。お楽しみに！また、ご多忙の中リレー随筆をお引き受けくださった佐藤会長に、心から御礼申し上げます。2年間、どうもありがとうございました。

～編集・発行～

千代田区地域振興部生涯学習・スポーツ課
〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL：03-5211-3632
FAX：03-3264-1466
Email：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp